人財育成コンサルタント／

美月あきこさん

Akiko Mizuki

客室乗務員として通算17年間、国際線に乗務。退社後、全国での企業研修や講演活動のほか、航空業界への就職支援スクール「CA STYLE」を主宰。「ファーストクラスに乗る人のシンプルな習慣」（祥伝社）など、著書も多数。

〝地味美人〟と呼ぶにふさわしいのは気を使わせない気配りができる女性

年齢とともに内面が成熟すれば美しさの絶対値は変わらない

〝地味美人〟な女性とは、地味さに映える美しさを持っている人だと考えます。集団の中にいても出しゃばらず、聞き上手な女性はもちろん、姿勢がきれいであるとか、周囲に気を使わせないような気配りができる女性も地味美人の象徴でしょう。女性の美と内面は表裏一体なのだと思います。20代は若さと比例して内面が未熟ですが、年齢を重ねるほどに内面が成熟していけば、美しさの絶対値は変わらないはずなのです。

先日、ポケットの中から小銭とお札を出し入れしている女性を見て愕然としましたが、所作や習慣も地味美人のキーワードになると思います。会話が終わるやすぐに受話器を置くような、余韻の残せない女性より、お礼状をスマートに書いたり、時間に余裕をもって行動している女性のほうが素敵だと思いませんか？

CAとしてファーストクラスに乗務していたころ、女性の品格はバッグの扱い方にあらわれると気づきました。高級でだれもが憧れるようなバッグをお持ちの女性が、ていねいに両手を添えて、足元や隣の座席に荷物を置かれる姿は同性から見てもしびれますし憧れます。逆に、同じようなバッグを、座席に放り投げたり、散らかっている中身が見えたまま放置される女性には、ちょっと残念な気持ちになります。お見送りしたあとに、またお会いしたいと思うお客様は、私もこんな女性になりたいと、同性を刺激される存在の方。言葉ではなく振る舞いで、〝女性らしさ〟や〝美しさ〟を感じさせ憧れさせる女性こそ、地味美人の鑑です。

ネックレス㊫¥803,250・㊧¥546,000（ミキモト）

吉本新喜劇座長／

小籔千豊さん

Kazutoyo Koyabu

'73年9月11日生まれ。'01年吉本新喜劇入団後'04年に座長襲名。「バカソウル」（テレビ東京系）「知りたがり！！」（フジテレビ系※水曜コメンテーター）「テレビで基礎英語」（NHK Eテレ）などに出演中。11/21に「人志松本のすべらない話」最新作DVDが発売予定。ビッグボルノとしての活動では、シングル「Tea!Tea!No!oh,,,突茶？」が発売中。

幸せになりたいなら、乳ではなくおいしいご飯でアピールしないと

男前なヤツを賛美する女は一生そこらを歩いてればいい

僕は、飲み会で男にボディタッチをしないような淑女が好きなので…、〝地味美人〟推奨派です。

地味女はおしゃれをするな、という意味ではないですけど、見た目ばかり気にする女性は、マルコス大統領夫人でもないのに、給料から捻出して買い物しすぎ。そんなことに邁進する女性には、ドロップキックをしてやりたいと思ってます。

きれいなレストランだけどおいしくない、汚い定食屋だけどめっちゃうまい…、僕なら迷わず定食屋に通いますね。伴侶を選ぶのも同じこと。なのに女性は、おしゃればかりしてすっぴんを見せず、必死に男に売り込んで…。映画でも、ええシーンばかり予告して本編がつまらなかったら、がっくりですよ。それに、乳が半分出てるような服を着る女性は、男からしたら、すでに半分見えてますやん。だからつきあって、残り半分が見えたところで感動なんかあるわけない…。乳は見えないから見たいし、触りたいと思うんです。女性は、先細りの魅力で勝負をしてはダメ。幸せになりたいのなら、乳ではなく、おいしいご飯がつくれるとか、人に優しいとか、この先も変わらない女らしさでアピールしないと。

地味美人とは、660ccの軽自動車でも、ハンドリングしだいで楽しく走れることを知ってる女性。心が豊かで、おしゃれに邁進しすぎることなく、一生大事にし合える男性と出会える女性です。連れて歩くことばかり考えて、男前を賛美する女は、一生そこらを歩いてればいい…ぶさいく男の負け惜しみみたいですけど。

フォトグラファー／

水田 学さん

Manabu Mizuta

「Domani」の人気企画〝きちんとVSこなれた〟系のファッション撮影をはじめ、フォトグラファー歴20年となるキャリアをもとに、キレ味のいい通勤スタイルからラグジュアリーないい女スタイルまで、数々のファッション誌で活躍。

溢れる癒し力と豊かな想像力…先を見越せる女性こそ〝地味美人〟

奥ゆかしくて所作のきれいな女性には男を癒す力がある

若いころ、外観を重視して車を選んでいた男も、最終的には内装重視になります。経験や年齢を重ねると、外からの視線より、大切なことは自分自身の充足感だと気づくからです。すなわち女性にも、内面に溢れる癒し力と豊かな想像力を求めるのです。

〝自家製〟の味をもっている女性は、とても美しいと思います。味噌や漬物、そして梅酒…、家の味を大切にする女性に男が憧れをもつのは、その味が家の香りをつくるからではないでしょうか？　家庭の味を守る姿からは、日本女性ならではの奥ゆかしさが感じられ、所作のきれいな女性には男を癒す力があります。

レストランでの食事中に、床に落としたナイフを拾う女性がいますけど、あれは気使いでもなんでもありません。落ちたものをすぐに拾おうとするバタバタとしたがさつな動きは、女らしくも美しくもない（笑）。ナイフは店員さんに拾ってもらうか、自ら拾うか、それを冷静に見極められる想像力こそ、地味美人の証。と考えれば、遅刻をしたりTPOを読めない女性は、先を見越せない＝想像力がないということになります。

仕事柄、多くの女性に会いますが、男に依存しない現代の女性たちが、奥ゆかしさを兼備したら最高だな～と思います。酒の席を盛り上げてくれる女性は楽ですけど、お！　この女性いいな、とは思わない…。やはり、男は女に女らしさを求めています。女性だって男には男らしさを求めるでしょ？　であれば、女は女にしかないものを磨けばいい…そう、男のマネは絶対にダメなのです。

ハンカチーフ¥10,500（ブルーミング中西（ブルーミング））

銀座ホステス／

中津智美さん

Tomomi Nakatsu

現在、ホステス歴12年目。銀座並木通りで36周年を迎えた老舗クラブでは7年目のベテランとして、VIPの接客や新人ホステスの育成にあたる。趣味は旅行。今秋はオーロラツアーを計画している。休日は資格取得に向け猛勉強中。

〝地味美人〟の最低条件は努力を周囲に悟られないこと

地味な一面をそのまま男性に見せるのはNGです

銀座という華やかな街並み、そして着飾っているイメージとは裏腹に、若さが武器になるわけではないホステスという仕事は、立ち居振る舞いやコミュニケーションにおいて、地味で堅実な日本女性らしい美しさが求められます。そのため、和服の身だしなみや所作に常に気を配り、新聞や経済誌に欠かさず目を通し、季節のお便りやお礼状に筆をとるのですが、その努力を周囲やお客様に悟られないことは、〝地味美人〟の最低条件かもしれません。

話している相手に安堵を与える横のシワ（目尻）は増やしてもいいけれど、不快にさせる縦のシワ（眉間やほうれい線）はつくってはならない…と、若いころに先輩から教わりました。

〝地味美人〟とは、自分が経験した挫折を、優しい表情や美しさに変えられる強さをもち、陰の努力を惜しまず、心使いを押しつけない女性にのみに宿る、本物の〝華〟をもっている人のことだと思います。

余談ですが…休日のホステスは、お化粧も服も驚くほど地味な方が多いんです。また、ガーデニングやツーリングなど、実は休みの過ごし方もとても地味…（笑）。男性はそんなギャップに弱いなどと言いますが、地味な一面をそのまま開けっぴろげに見せてしまうのは絶対にNGです。電車の中で、美しい女性が手にしている本のタイトルが気になるように、この人は、休日に何をしているのかな？　今日までどんな人生を送ってきたのか？　と、一方的に気にかけられることが、男性から長く興味をもっていただく秘訣ですよ。

㊫ティーカップ［ソーサーとセットで］¥4,200・㊧ティーカップ&ソーサー¥4,200（ウェッジウッド）

●この特集で使用した商品についての問い合わせ先は310～311ページにあります。